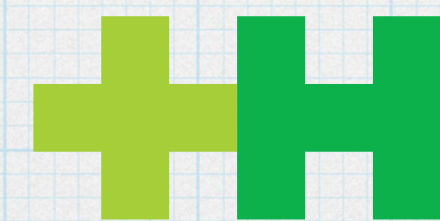


医薬分業から**医薬協業**へ

～医療DXを活かすために～



医療法人嘉健会 思温病院



ファルメディコ株式会社

狭間 研至

医薬分業における問題点

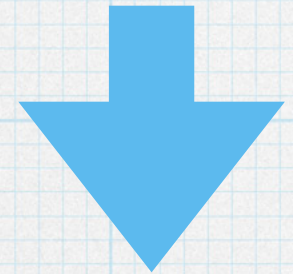
医師

薬剤師

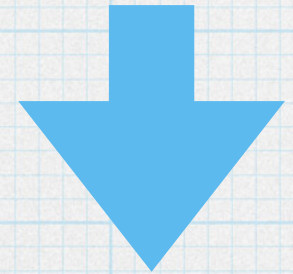
患者



診察



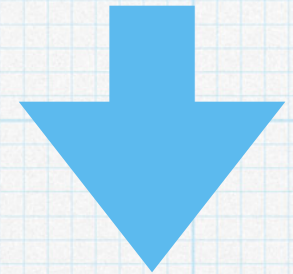
診断



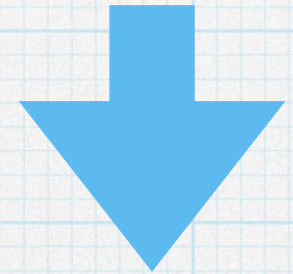
処方



処方監査



調剤



服薬指導



症状AにXを処方



症状BにYを処方



症状CにZを処方



「お薬受診」に多忙 専門性発揮しづらい

→ 「対物」業務

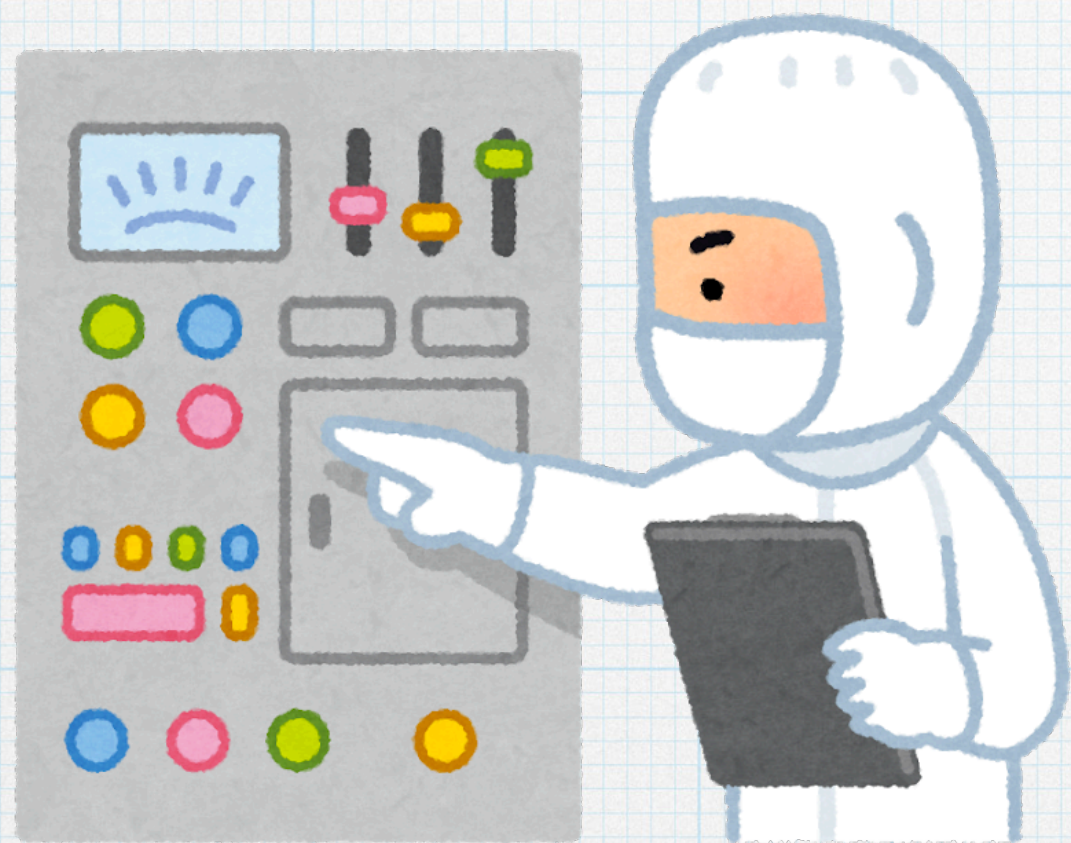
ポリファーマシー

この形態で処方箋が電子化されても大きく変わらない

薬剤師の専門性が活かされる場面

前

調剤技術
服薬指導
薬歴記載



薬学的専門性の低下

服用



後



薬学的専門性の発揮

薬理学
薬物動態学
製剤学

渡すまで（**対物**）ではなく、のんだ後（**対人**）まで

医薬協業における関係

医師

薬剤師

患者



診察
↓
診断
↓
処方

フィードバック



リフィル

調剤
↓
フォロー
↓
アセスメント



医師の診察と処方
↓
薬剤師によるフォロー
↓
次回診察時に反映



新しい治療戦略

専門性の発揮
→ 「対人」業務

処方内容の最適化

電子化と医療情報プラットフォームのメリット大きい

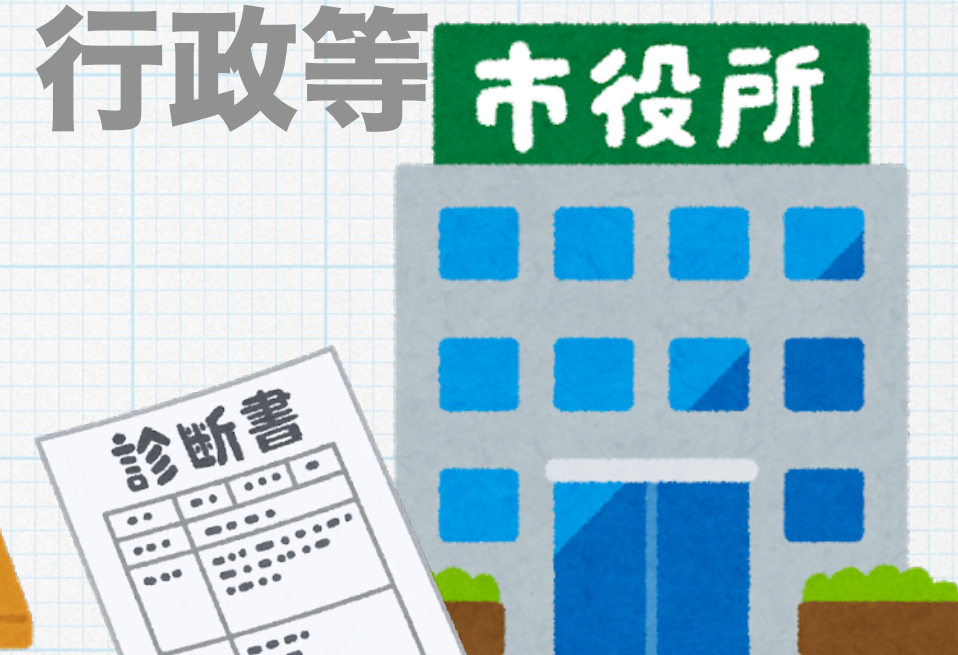
医師の業務

医療機関

薬局

行政等

市役所



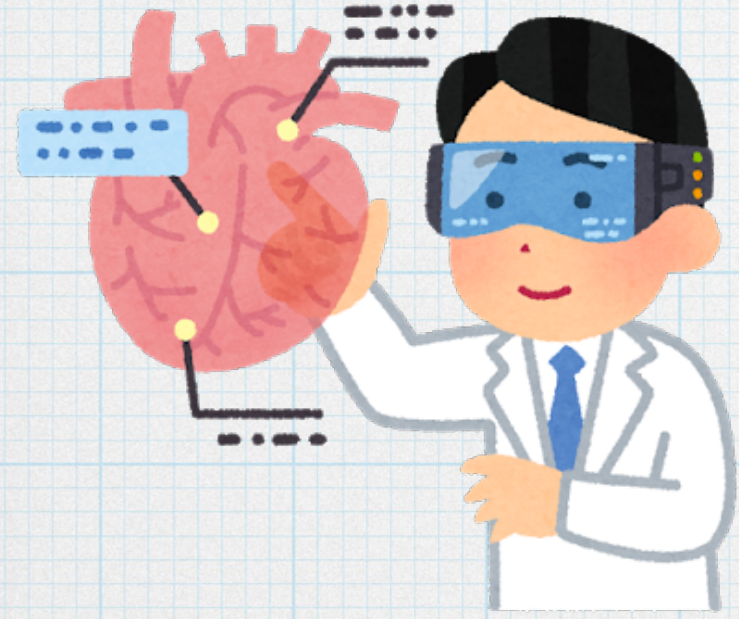
これからのニーズ

現在の業務

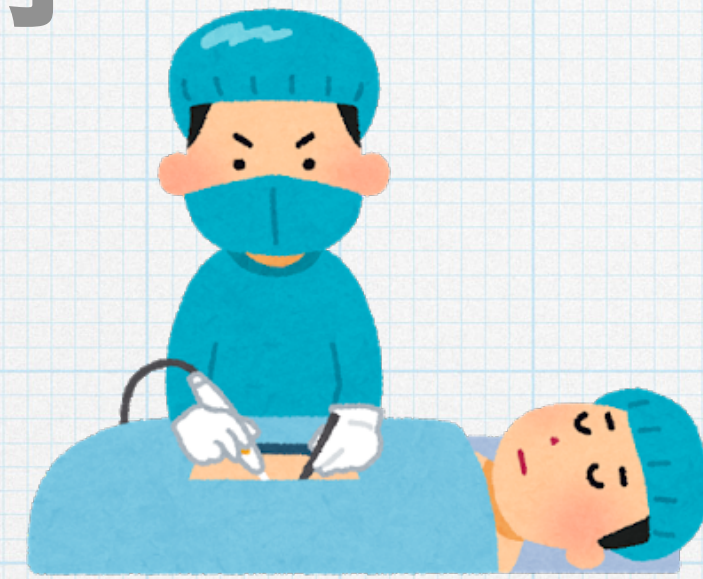
施行

処方 ← 診察

判断/診断



高度医療



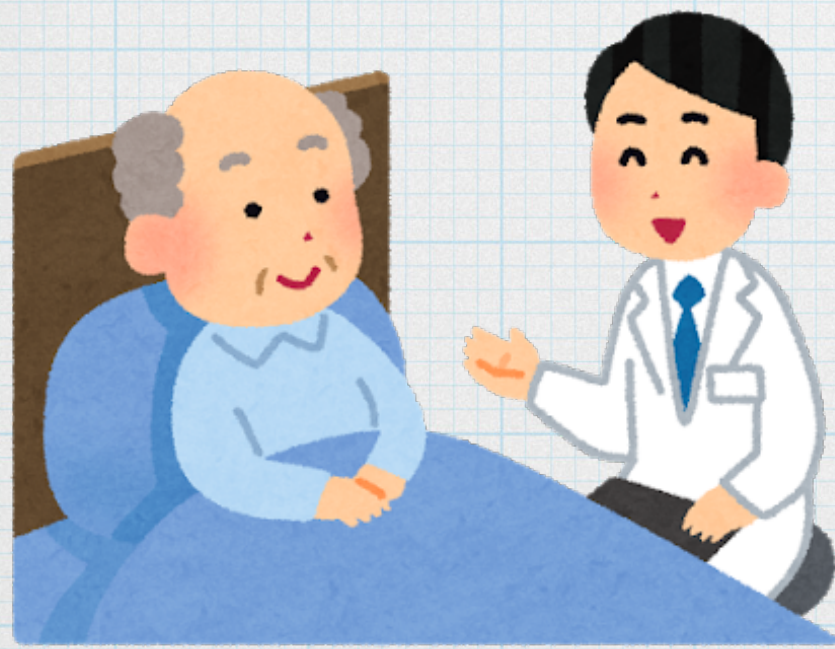
手術



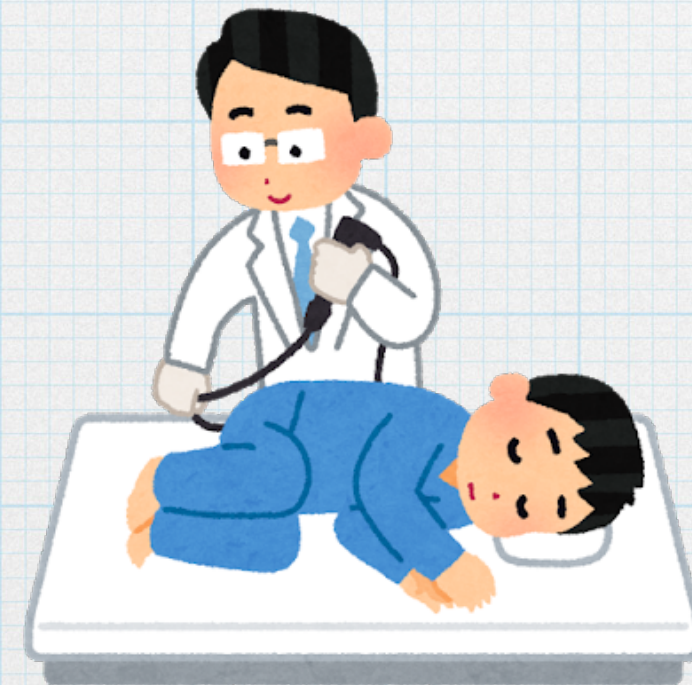
診察 → 処方



採血



在宅医療



処置

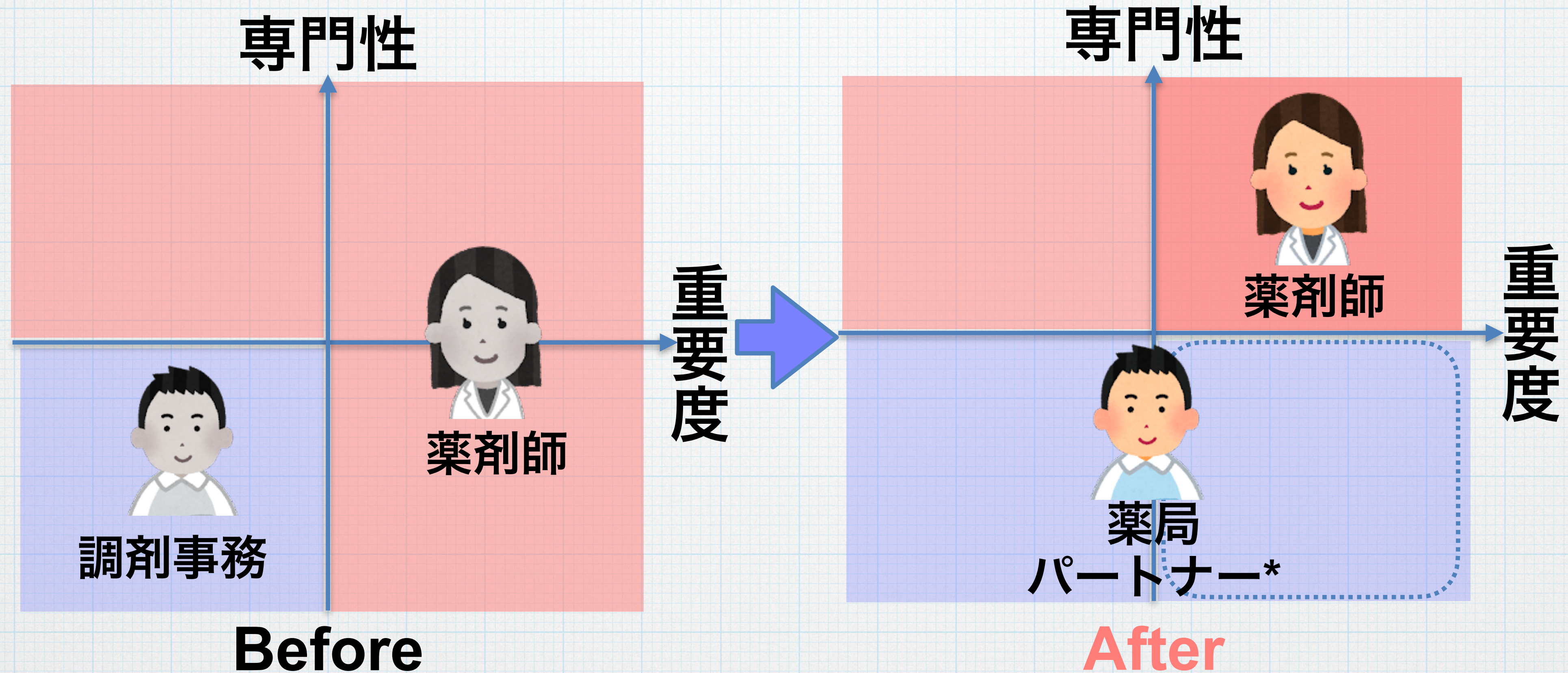
前回処方の妥当性
処方変更の必要性

薬物治療管理業務



検査

調剤事務のリスクリリング



Before

After

* 「調剤事務」を再教育し「薬局パートナー」と名称変更

業務的に重要だが薬学的専門性はない業務を

薬剤師から「薬局パートナー」にシフト